

2025年7月30日（水）

老球の細道 880号

7月の言葉

会津バスケットボール協会

室井 富 仁

かつて「先生。暑いです！」と愚痴をこぼす生徒に、私は平然として「夏は暑い、冬は寒い、蚊に刺されれば痒い、ただそれだけである」と語り、当たり前で集中力を乱すなと戒めた。また「暑かったら、もっと熱くなれ」と豪語していたが、今は扇風機、クーラー、氷の微笑に頼りっぱなし。昔、常勝能代工業バスケットは夏のインターハイを勝ち抜くために、大会前の練習は体育館にストーブをつけて練習したという。夏は体育館にクーラーを！

1・読書から

◆「古人の跡を求めず、古人の求めたる所を求めよ」〈『講座日本思想 5 美』東京大学出版会〉：松尾芭蕉の言葉と言われている。先人たちの模倣ばかりして同じものを作ろうとしないで、先人たち理想としたところを求めなさい。過去の偉業に数多く接し、そこに潜む共通の原理原則から自分独自のオリジナルを創ることが楽しい。芸術もバスケットも同じ。

◆「国家興亡の歴史を見るに国を興すものは青年、国を亡ぼすものは老年なり」〈児島護著『太平洋戦争・上』中公新書〉：戦後80年、「新しい戦前」と言われる昨今、なぜ我が国はあのような無謀な戦いに突入させられてしまったのか。この時期、毎年歴史を振り返る。

◆「業、精からざれば、胆、大ならず」〈遠山啓著『教師とは、学校とは』太郎次郎社〉：自分の仕事によく精通していない人は、ふだんはエラそうなことを言っている、いざという時にうろたえてしまう。子どもを育てるコーチも教師も同じである。常に自己研鑽。

◆「勝った、負けた、とりわけ負けには大きな悔しさが伴い、結果、その思いが人間をまた1歩も2歩も成長させてくれる」〈『スポーツジャパン Vol78』JSPO〉：勝つ喜びは一瞬であるが、負けた悔しさは一瞬では終わらない。負け方が重要であり、全力で闘い、すべてを出し切って負けることから数多く学ぶ。ピカソ曰はく「全ての創造は破壊から始まる」。

2・新聞から

◆「第三次世界大戦がどのように行われるかは私にはわからないが、第四次世界大戦で何が使われるかはお教えできる。石だ！」〈朝日：天声人語〉：80年前（1945）の7月16日 人類史上初の核実験が実施された。核戦争には敗者しかない。かつてすべてが破壊された後を想像してアインシュタインが語った言葉である。非核3原則、比較3原則忘れじ。

◆「これを好む者はこれを楽しむ者に如かず」〈朝日：折々のことば：孔子〉：ある対象に執着する人は、それと一体になれる人に所詮かなわないという孔子の有名なことば。顔をしかめた努力は楽しみながら夢中になって熱中している者には勝てない。努力を楽しむ。

◆「誰にでも平等に訪れるリアルとは、人は生まれ、その人に与えられた時間を生き、そして時がくれば死んでいくということだけ。だからいまを充分に生き、やりたくないことをやっている暇などない」〈朝日：読書：森永卓郎〉：将来に対する恐れが、今を充分に生きることが拒んでいる。人生の輝きは「死から生を眺めてみたときに、最も高まる」と言う。